



**前** 延国治さん

S55  
東広島市役所産業部農林課

S60  
広島県庁都市局都市計画課

現在  
黒瀬町企画財政課課長補佐

OB紹介  
File No.3

現在のお仕事について  
教えて下さい

・公務員として

もともとは東広島市の職員ですが、平成一四年九月から一市五町（東広島市、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町、安芸津町）の合併準備のため黒瀬町役場に赴任しています。

具体的な仕事の中身は内部調整が主なものです。

のです。財源に絡んで、いろいろな相談が各部署からあるので、行政として、国と県との役割分担を意識しながら、町としての最適な取り組みを関係部署と一緒に考えていく半ばコンサルタントのような仕事をしています。

・公務員になってよかったと思うこと

公務員になって良かったと思うことは、いつまでも学び続けられるということです。どんな部署でも三、四年で回っていき、仕事内容も把握すべき制度もその都度変わるので、その度に勉強しています。自分は同じことを続けるのがあまり好きではなく、もし同じ仕事を続ける場合にも、やり方を変えろとかが、より良い方法を見出すとか改善しながら取り組みたいと考えているので、変化があるのはこの仕事のいいところだと思います。公務員に限らず、どんな仕事でもやってみると面白い部分はあるので、そういったことに自分の能力を伸ばしながら取り組むように心がけたいですね。

・実際に公務員として働く上で注意していること

注意しているのは、来訪者に対して役所

ができることとできないことを明確に伝えるということ。役所に来る人はたいがい何らかの要望があるのだから、その要望に答えられるかどうかを伝え、答えられない場合にはその理由や代替案、アドバイスなどを提示するようにしています。そのときは来訪者の気を損ねないように、相手の気持ちを考慮しながら対応することを心がけています。

・同窓会長として

同窓会の主な活動は名簿管理と「同窓会だより」の発行ですが、各学年でそれぞれ集まっておられるようです。今後は、学生がどの方面に進むのかを選択する手助けとして、職業ごとのOB・OG会を開いて、学生さんに聞いてもらう場がもてればいいと考えています。自分自身も同窓会長を務めるようになり、いろいろな人と会う機会が増えました。他の職業の方との話の中で、もっと早くから知り合っていたら良かったと思うこともあり、皆さんからいろいろと学ばせていただいています。総科卒業生にはマスコミに進んでいる人や、公務員になっている人も多いようです。今の在学生にも、自分の興味とあったOB・OGの話

実際に聞く機会があれば、参加したいかどうかなど、今後こちらからも意見を求めてみたいと思っています。

## 学生時代の思い出は？

### ・総合科学部に入った理由

総合科学部を選んだ理由は、他学部にはない新しいジャンルがあったこと、また総科は入ってからやりたいことを選べたということです。自分がどういう方向に進みたいのかを自信をもって決められないといった時にそれを考える時間があり、そして、どうせ勉強するなら、既存のものをやるのではなく、新しいものをやりたいという気持ちもありました。

### ・友人との思い出

総科ノートというものがあり、様々なことをそれに書いていました。何か言いたいことがある時、誰かに聞いて欲しい時、結構大胆に書くことができました（書いたことについて議論して朝になることもありましたが）。また学生時代で一番思い出に残っ

ているのは仲間と遊んだ記憶です。部活や研究室での頑張った思い出もありますが、それよりも一・二年の頃に遊んでいた時の方が楽しかったですね。とにかく、学生時代は、いろいろな人と接することが、互いを触発していく、それを実感できた時期だったと思います。

### ・少林寺拳法

大学時代は体育会の少林寺拳法に所属していました。入ったきっかけは友達の紹介だったのですが、その友達はその後退部してしまっただけで、結局最後まで残ったのは私ともう一人だけでした。入った時は護身術を学べればいいと思い、一年で辞めるつもりだったのですが、それが辞められず、いまだに続けています。

### ・卒論作成の思い出

研究室は、山下和男研究室で、卒論では「金属ポルフィリンによる光エネルギーの光化学的変換」について研究しました。

当時は、真空蒸着装置（先生の手作り）を使ってAL/PO/Agの半導体を作って、その光反応特性を測定するのが日課でしたが、三時のお茶タイムは先生と研究室の相棒

（仙波さん）と英語で実験の進捗状況等や研究のまとめ方、進路の相談やら世間話などをしていました。先生はアメリカ帰りだったので、アメリカの先生のセミナーと一緒に聞く時など英語には苦労しましたが、研究以外のいろいろな話をしたり、先生のお宅でのパーティに参加させていただいたり、楽しい研究室生活でした。



卒論の際の研究論文（奥左）  
部活誌（奥右）  
手作りの卒業文集（手前）

## 学生へアドバイスをお願いします

### ・就職に関して

難易度の問題だけではなく、どの仕事に就くにしても、自分が何をしたいのかを明確に説明する能力は必要だと思います。公務員に限らず、学生時代に自分の個性をつかみ、どのような職業が向いているか考えることも必要です。自分の興味のある職業に就いている人に直接会い、話を聞いて、それを参考に自分の個性や適性を考えると良いのではないかと思います。とにかく自分が何をしたいのかというビジョンを持ちましょう。私も面接試験の担当をしていたことがあるのですが、面接をしていると、本人の考え方、就職したい理由、その人の組織人としての適性、などがよく見えてきます。面接に関するノウハウを書いた本が最近売られています。やはりノウハウで乗り切ろうとした一時的に対策を打った人はすぐに見破られるので、普段の自分を磨くことが大切です。

### ・進路の選択

就職に関しては、私の場合、大学での専

門を生かして研究職に就くか、それとも専門的ではなく、幅の広い一般職に就くかの選択でした。研究職に就くのなら大学院に進まなければならないし、そうでなければまた別のことを考えなければならない。このような選択は誰もが人生のどこかで経験し、その積み重ねで今の人生が成り立っているのだと思います。

総科の場合、学生時代に幅広いことを学びますが、これは就職してからいろいろなところで生きてきます。例えば総科を卒業してマスコミ関連の仕事に就いた時、総科で学んだ広いジャンルの知識があるため、取材の内容が自分の専門でなくてもある程度は理解できる、といったことがあります。これは役所でも同じで、保険や医療、また下水に関する事など、様々な分野に対応できる総合力というものが重要です。

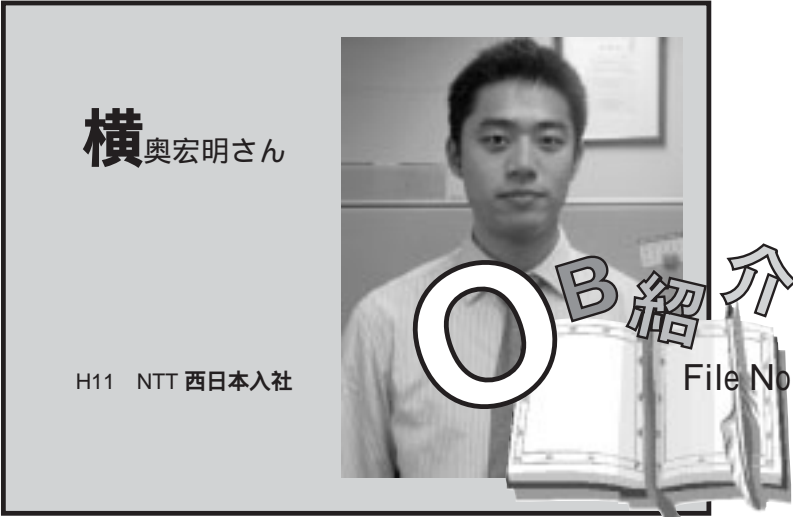
### 最後に一言

学生時代にいろいろな場所に足を運び、何でもやってみることが大事だと思います。時間があふ、様々なことができるのは若いうちの特権です。市役所の仕事一つを見て

も、初めはやはり、何をすればよいのかわかりません。しかし、学生時代に多様なことを経験していれば、仕事に馴染みやすいのではないのでしょうか。

また、新たなことを見聞きしたり、始めたりすると、そこで新たな人とのつながりも生まれます。そういった人との信頼関係があれば、仕事上の情報交換もしやすくなるなど働く上でも利点が多いので、学生時代に良い人間関係を構築しておくの良いと思います。将来どのような人と付き合い、働くかはもちろん分かりませんが、学生の間に、いろいろな人と付き合い、その中で良い友達を作っておくことが重要なことだと思います。

(担当：16生 森尾陽一)



**仕事内容**

・NTTを選んだ理由は、何ですか？

NTTを選んだのは、大学生の時に見た、あるテレビ番組がきっかけになっています。そこには、田舎に住むお年寄りがテレビ電話を利用する光景が映っていました。当時私は「テレビ電話なんて未来の機械だ」と考えていたので「未来」という言葉から連

想するイメージと、かなりかけ離れた画面内の光景に、ギャップを感じ衝撃を受けました。

実は、これはNTTの試験的な取り組みだったんです。NTTは、大きく言えば、コミュニケーションの方法について取り組む会社、そして携帯電話の普及に伴う変化のように、私たちの生活スタイルを変え得る会社だと思っています。その影響力のすごさには、脅威も感じたのですが、いずれにせよ、やりがいがありそう、魅力的だと感じ、仕事をしてみたいと思いました。

・入社当初は何をしていましたか？

二年間、研究開発をしていました。また、年に一度、特許申請、半年に一度、論文の執筆も行っていました。うちの会社には、新入社員には師匠（入社4〜5年以上の人）が付く、従弟制的な制度があるんです。私の場合、学部卒で就職したこともあり、研究活動に浸った経験が少なかつたため、「そもそも研究ってのは」という話から始まりました。仕事が煮詰まった時には、徹夜でつきあってもらうなど、本当にその先輩社員のお世話になりました。自分自身も、同期（周囲は皆大学院卒）に追いつこうと

必死に頑張っていた記憶があります。

・何の研究をしていたんですか？

企業に関するネットワークについて研究開発していました。この性能・機能の進歩は非常に速いため、お客様により良いサービスを提供するには、常に新たな技術開発を行なうことが欠かせません。研究開発された全ての技術・機器がビジネスにつながるわけではありませんが、私の携わった物は無事、製品化され、大きな達成感を得ました。

・職場の雰囲気はどんな感じですか？

とてもリラックスした雰囲気です。作業して、疲れたらコーヒを飲んで、また作業して…。必要に応じて気楽に周囲と相談し、議論する雰囲気もありました。しかし、議論上では少しでも論理的に誤ったことを言うと、厳しい指摘が飛んできましたが。

・研究は何人位でしているのですか？

大きなテーマであれば、それ全体にはかなりの人数（数十人）がいます。そのテーマを細分化し、それぞれ数人（3〜4人、あるいは、それ以上）で一チームを構成し、

取り組んでいます。具体的な仕事は各個人に割り当てられ、各個人が進めていきます。各個人の仕事の進捗はチーム内で共有されており、何か問題が出ればチーム内で議論します。

・今はどんな仕事をしているのですか？

今はシステム・エンジニアとして働いています。営業担当者が持ち帰ってきたお客様のニーズや希望に関して技術的な話をしたり、実際に研究者の技術をどんな風に組み合わせればそれを満たすことができるかについて、考案したりしています。IP電話を専門にしている、実際に組み合わせを調べ、試験するということもしています。

・仕事を通して、自分で変わったと思うところはありますか？

仕事を通して、様々な人の話を聞くうちに社交的になりましたね。初めは苦手だと思っことでも、やるうちに面白みが出てきて、それを発見できたことも良かったと思います。

### 総合科学部

・総合科学部を選んだのはなぜですか？

理由は、「入学後一年間、色々な講義を受けて、自分のやりたい・自分にあった専門を考える期間があること」「受験時に興味を持っていた情報系の専門があったこと」「理系あるいは文系に特化することと同様に、どちらにも特化しないことも重要ではないか」と考えたからです。

・総合科学部に入ってよかったと思うことはありますか？

自分はこれが専門だ、というふうになく凝り固まらなくて良かったと思います。総合科学部は、よく中途半端っていう捉えられ方をしますが、分野毎で善し悪しを定義づけるような、従来の価値判断を超えたところに、良さがあるんじゃないでしょうか。私自身は、広く理解し、全体を見渡す事を、自分のキャパシティや幅に繋げる事ができたと思います。

それに専門があっても、自分の専門と入社して配属される場所で仕事内容がぴったり合う、ということはほとんどないのでは

### 学生時代

・特に面白かった授業は何ですか？

絵の授業は面白かったですね。世紀の絵画にはこんな特徴があって、とか。本を読めば勉強はできるけど、なかなか自らはしないので、絵に興味を持つきっかけになりました。自分の専門と全く違ったものを取ると、新たな発見があって良かったですね。

・卒業研究は何をしていましたか？

ゲーム理論を研究しました。ゲーム理論ってというのは、簡単に言うと、利害の一致しない状況を分析する学問で、経済や政治を始め、様々な分野で用いられているよう

です。

・どうしてゲーム理論を撰んだのですか？

先生が好きだったからです(笑) 厳しい感じが良くて、これならついていけるって思ってたんです。特にやりたいものがなかったことも影響しているかもしれません。週1回ペースで食事をしながら話を聞くという良い体験ができました。

・サークルには入っていたんですか？

友達が集まったときに、「運動したいね、テニスでもやるか！」って事でテニスサークルに入りました。でも友達とバンドを組んで、学祭に参加したり、ライブハウスで演奏したり、音楽を聴きながらお酒を飲んだりしてて、そっこのほうが楽しかったですね。

・バイトはしていたんですか？

家庭教師や、ワンルームマンションの掃除のようなものを2年間くらい、友達の誘いでやっていました。若者が成長していくのが嬉しくて、家庭教師は面白かったです。掃除は、もともときれい好きなので、自分に向いていたと思います。バイト経験を通

して、自分の興味や適性、人とのつながりの大切さを知ったように思います。何事もやってみるべきですね。

最後に

・後悔しない進路選びをするために一言ア

ドバイスをお願いします。

ある選択をした直後には、「あっちにしておけば良かった…」と後悔する事は多いです。実は、私もデジタルアートに興味を持っていたので、就職するか、専門学校に進学するか悩みました。でも、その後しばらくして、ふと、その時点の自分と自分が歩んできた道のりを思い返して見ると、当時後悔した選択が間違っていなかったと思えてきました。逆に、もう一方の進路を選んでいたらとしても、同じ経緯を辿っただろうと思います。自分が進むべき道はこれしかない、と思える人はすごいと思いますが、そうでない場合でも、その時点で自分が選んだ環境の中で、頑張っていけばいいのではないのでしょうか。

・学生時代にやっておいたほうがいいと思

うことは何ですか？

1ヶ月とか2ヶ月とか、長期の旅行に行くといいですね。就職すると、なかなかそのような時間は取れなくなるので。普段やらないことができ、視野や経験の幅を広げられます。

(担当: 16生 坪井美幸)



楽天的に+@一生懸命に！  
何とかなるさ、というのと  
頑張らないと、という両方が大事！！

\*このコーナーは他、15生 津田宏美、丸一真実、16生 岩井三笑、西川史保子、廣川千恵が担当しました。